

太陽ホールディングス子会社、太陽インキ製造が 環境省主催「脱炭素経営フォーラム2019」に登壇しました

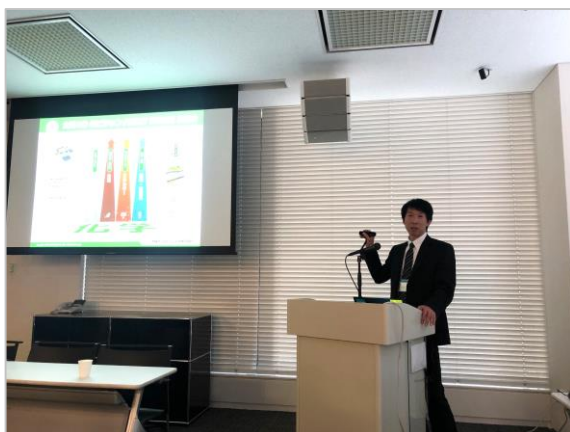
太陽ホールディングス株式会社(本社：東京都豊島区、代表取締役社長：佐藤 英志、証券コード：4626)の子会社である太陽インキ製造株式会社(本社：埼玉県比企郡嵐山町、代表取締役社長：峰岸 昌司)は、2019年11月20日(水)に開催された環境省主催「脱炭素経営フォーラム2019」のトークセッションに登壇しました。

環境省は、脱炭素経営に関する世界の最新動向を共有し、脱炭素社会の実現に向けた企業の実践・行動を促すため、11月19～20日の2日間にわたり、「脱炭素経営フォーラム2019 ～VISIONからACTIONへ～」を開催しました。太陽インキ製造は、Day2「脱炭素経営による企業価値の向上と競争力強化」に参加し、『サプライチェーンのマネジメントとエンゲージメント』をテーマに花王株式会社様、株式会社艶金様とディスカッションしました。

トークセッション概要

当社登壇者：太陽インキ製造株式会社 取締役 深田 徹
 テーマ：サプライチェーンのマネジメントとエンゲージメント
 主催者URL：<http://www.env.go.jp/press/107348.html>

セッションでは、川上のサプライヤーとして、再生可能エネルギーの取り組みを始めた経緯、これまでの取り組み内容、水上太陽光発電のみを実施している理由、企業価値向上の観点での現状認識、業界内での環境認識等についてご紹介しました。



登壇の様子

太陽ホールディングスのSDGsへの取り組み

太陽ホールディングスは、脱炭素化に向けた自然環境にやさしい「再生可能エネルギー」の普及促進や、食糧危機への対応策としての昆虫食の研究等、地球規模の環境問題に「出来ることから始めよう」というコンセプトで取り組んでいます。2019年10月31日の四十九新池水上太陽光発電所の開所を以て、国内で計10基の水上太陽光発電所を稼働させ、当社国内グループ電力消費量(※)相当のクリーンエネルギー生産量を達成しました。今後も世界的な課題解決につながる事業を行い、社会に貢献してまいります。

※2018年末時点での集計データで算出

4 水上太陽光発電所稼働一覧

国内稼働 10 基

年間想定発電量 約 16.1Gwh

→2018年国内グループの電力消費量 110% 相当



海外：韓国工場で2018年より太陽光発電事業開始

Copyright TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス株式会社

当日の発表資料一部

【太陽ホールディングス 会社概要】

【本店所在地】 〒355-0222 埼玉県比企郡嵐山町大字大蔵388番地
 【本社】 〒171-0021 東京都豊島区西池袋一丁目11番1号 メトロポリタンプラザビル16階
 【代表】 佐藤 英志
 【創業】 1953年9月29日 【資本金】 93億3,191万円
 【従業員数】 連結 1,614名/単体 107名 (2019年3月時点)